

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272400821		
法人名	有限会社ケアサービスたんぼぼ		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地 (電話番号)	〒037-0202 青森県五所川原市金木町字芦野200番地269 (電話) 0173-54-2785		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年10月2日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成20年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 1月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	9人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	9,000 ~ 冬期10,500 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立金木病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧金木町芦野公園の一部、公園特別景観区域にあり、芦野公園の春の桜・秋の紅葉を楽しむことができる。敷地内は、グループホームの他、通所介護・訪問介護・居宅介護支援事業所の事業所と有料老人ホーム・高齢者共同住宅がある。ホームは、東西に延びる切妻平屋建てで、広いリビングと建物の裏庭にある広大な畑が特徴的である。徒歩で公園内を散策でき、室内では日常的に平行棒を使った歩行練習を行っている。地域のお年寄りを中心に入居しており、家族や親戚・知人の面会が多く、家庭と変わらない生活環境がある。開設以来、職員の退職者はおらず、お年寄りとの馴染みの関係が続いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・運営推進会議の開催回数については、2ヶ月に1度の開催とし、委員の了解を得て、これを年間計画に位置づけ定例化している。・地域権利擁護事業、成年後見制度の学習会は実施できなかったため今年度中に実施する予定である。・同業者との交流は、同じ地区のグループホームの中で消防設備等の情報交換があり、隣接する福祉施設とは、日常的にお年寄りや職員が顔を合わせており、積極的な交流がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価を実施してサービスの質の向上に取り組んでいる。外部評価の調査結果は、職員会議で検討し、運営推進会議の議題にあげて改善点の報告と改善に向けての具体的な取り組みを話し合っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、今年度計画に2ヶ月に1度の開催日を設定して実施している。外部評価の実施結果の報告・改善点の取り組み状況について話し合っている。また、毎回議題を設定して防災協力、看取り・医療連携加算等の議題を中心に意見交換している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>入居前より見学・面接を通して、不安や疑問に答えることで十分な理解と納得が得られている。家族へ面会ごとに近況報告をしている。また、外出先での様子や健康状態・受診状況、金銭管理について報告している。面会に来られない家族には、月1回の電話連絡や「たより」を郵送して家族等への報告を行っている。家族の面会時や電話連絡をした時に、気軽に意見や苦情を話してもらっており、これらの内容について職員会議で検討し、具体的な取り組みとしてサービスに反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>団地の町会に入り、町会活動に参加している。ホーム入居者は、近隣の出身者が多く家族や親戚の方々が、気軽に立ち寄り、作物等を届けてくれる。近隣中学校の福祉体験学習では、2日間で6人の生徒を受け入れている。また、町の文化団体協議会主催の作品展示会では、ちぎり絵等の大型作品を出品・協力している。地域交流として、毎年夏祭りを実施している。地域に向けた取り組みでは、8月にシニア音楽鑑賞会を開催して大勢の参加があった。また地域の文化祭に職員が協力している。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程・情報提供票には地域との連携・家庭的な環境について明記しているが、開所時に作られた運営理念には盛り込まれていない。		地域密着型サービスの意義・役割を考え、具体的な言葉を入れて現状にあった理念を作り上げることに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会議のなかで、事業所理念を唱和して確認しており、理念の具体化を意識して、個別介護計画の検討に反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	団地の町会に入り、町会活動に参加している。ホーム入居者は、近隣の出身者が多く家族や親戚の方々が、気軽に立ち寄り、作物等を届けてくれる。近隣中学校の福祉体験学習では、2日間で6人の生徒を受け入れている。また、町の文化団体協議会主催の作品展示会では、ちぎり絵等の大型作品を出品している。地域交流として、毎年夏祭りを実施している。地域への取り組みでは、8月にシニア音楽鑑賞会を開催して大勢の参加があった。また地域の文化祭に職員が協力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で自己評価を実施してサービスの質の向上に取り組んでいる。外部評価の調査結果は、職員会議で検討し、運営推進会議の議題にあげて改善点の報告と改善に向けての具体的な取り組みを話し合っている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>町内会民生委員、家族会代表、地区の行政委員(行政相談員)、在宅介護支援センター職員、老人クラブ代表で構成され、外部評価の実施結果の報告・取り組み状況について、防災協力、看取りについて等の議題を中心に意見交換している。今年度から、計画的に2ヶ月に1度の開催日を設定して実施している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>所属のケアマネジャーが市の地域ケア会議に出席しており、市の地域密着サービス担当者や事業所・ホームの利用状況や実情について話し合い連携を図っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、利用者家族が地域福祉権利擁護事業の日常金銭管理サービスを希望したので手続きを行ったことがある。昨年度の課題として職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学習する機会がないことがあげられていたが、あまり改善が見られていない。</p>		<p>法務局や県社協等が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する資料を発行しているため、そうした入手の容易な資料を活用して学習会を行い、職員の理解を深めることを期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は、高齢者虐待防止の研修に毎年参加して、職員会議のなかで研修内容を発表し、周知を図ることにより、虐待防止を徹底している。具体的にどのような行為が虐待であるのかを意識して業務を遂行している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申込みの時にホームでの生活について詳細を説明している。入居前の見学・面接を通して、不安や疑問に答えることで十分な理解と納得が得られている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会回数が多く、近況報告をしている。外出先での様子や健康状態・受診状況、金銭管理について報告している。面会に来られない家族には、月1回の電話連絡や「たより」を郵送して家族等への報告を行っている。家族会が組織され、運営推進会議に家族代表が出席しているが、会議の報告内容については他の家族は知らされていない。</p>		<p>運営推進会議で検討した内容については、「たより」等に掲載したり、行事で家族等の集まる機会に報告することが望まれる。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時や電話連絡をした時に、気軽に意見や苦情を話してもらっており、これらの内容について職員会議で検討し、具体的な取り組みとしてサービスに反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来職員の退職・異動がなく、現在のところお年寄りとの馴染みの関係がしっかりと保たれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「嚙下・口腔ケア」、「入浴介助技術」、「センター方式によるアセスメント技術」等職員1人あたり年1～2回の外部研修を受けており、毎月の職員会議で復命研修の発表・内部研修を実施している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホームの中で待機者や消防設備等の情報交換があり、隣接する法人の福祉施設とは、日常的にお年寄りや職員が顔を合わせており、積極的な交流がなされている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と密接に連絡を取り、普段の生活習慣を聴いて、これまで培ってきた人間関係や地域との関係を把握して、本人のペースに合わせた生活を支援している。また、同じようなペースのお年寄りと話をする機会をつくり、徐々にホームの雰囲気に馴染めるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、お年寄りと共に暮らすなかで、こだわりや生活の技を教えてもらう場面を多く持つことで、共に支え合う関係づくりに留意している。お年寄りは野菜の皮むきや筋とり等、調理の下拵えを手伝ったり、得意な裁縫技術を生かした作品づくりを積極的に取り組んでいる。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や行動から、お年寄りの思いや暮らし方の希望・意向の把握をしている。具体的には、食事の嗜好調査を実施したり、センター方式を活用して本人の視点に立った検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の原案を介護支援専門員が作成し、定例会議のなかで全職員で意見交換し、本人・家族と話し合いお年寄りの暮らしを反映した介護計画としている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行うと共に、職員が日常的に記録している状態変化や気づき・アイデアを集約して検討見直しを行っている。毎月の定例会議のなかで最近の状況を報告し、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お年寄りの状態変化に応じた診療科目の受診、緊急時や自宅での介護が困難になったお年寄りに対して短期利用共同生活介護を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の同意を得て、事業所の協力病院を公立金木病院としている。夜間の診療体制が整っており、急変時の対応に応じている。協力医療機関のほか、ご本人の在宅当時からのかかりつけ医を希望する方もおり、継続受診している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約の時に、重度化したときの対応や終末期のあり方について、ご本人・家族の意向と希望を文書で確認しており、安心と納得が得られるように話し合いをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に秘密保持に関して就労中・退職後も継続する旨の誓約書をとっている。また、運営規程には秘密保持規程があり、個人情報に関する契約書を取り、個人情報の漏洩防止につめるとともに、お年寄りに対しての言葉かけや語調がプライバシーを損ねないように配慮している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のスケジュールはあるが、今日何をしたいかを把握して、お年寄りの体調や生活リズムに配慮した個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下拵えから食器を拭く等のお手伝いをしてもらっている。お年寄りと職員が同じテーブルで一緒に食事をしている。職員は、見守りや声掛けを行い自力で食べようとする気持ちを引き出すようにしている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回午後の入浴を基本にして夏の暑いときにはシャワー浴も実施している。広いスペースのユニットバスで洗身が楽にでき、利用者の好み入浴剤を入れて入浴を楽しんでいる。一番風呂に入りたいという希望者が多く、その日のタイミングに合わせてずらすように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お年寄りの生活歴や職業経験を生かした得意な場面づくりを支援している。畑の作業や食事の下拵え・エプロン配り、下膳の手伝い・新聞たたみ等、役割を持った自分らしい活力のある生活を実現できるように支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム敷地は公園の一部であり、毎日森林浴のできる散歩コースがあり、近所の商店やショッピングセンター・市内の大型ショッピングセンター等へ外出を行っている。また、広い玄関先で外気浴を行い、骨粗しょう症の予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によってお年寄りが受ける身体的・精神的弊害について研修会で理解を深め、定例会議で全職員に伝達し、身体拘束のないケアの実践に努めている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室・玄関・非常口に鍵をかけず開放している。常時職員が近くで見守りを行っているが、無断で外出するお年寄りがあり、玄関にセンサーを取り付けている。夜間は、外部からの侵入者等の防犯のため、20時から6時まで施錠している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が年間の消防計画を立て、年2回消防訓練を実施している。運営推進会議では町会関係者が出席しており、消火訓練の参加を呼びかけたり、防災の話題を提供して地域住民の協力について考える契機にしている。自動火災報知器の設置を計画している。緊急の職員連絡体制表と電話短縮ダイヤルで近隣の職員を呼び出す体制をとっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接するデイサービスの栄養士がカロリー計算した食事内容で十分な栄養摂取量と栄養バランスのとれた食事を提供している。家庭での生活習慣を聴いて飲食量の低下を防ぎ、嗜好調査をして個別の食の支援をしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する地域の情報収集を行い、事業所内で起こりうる感染症のマニュアルを作成して、全職員で学習し予防・対策に努めている。毎年、お年寄り・職員ともにインフルエンザの予防摂取を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>東向きの玄関を入るとワンフロアの広いリビングがあり、床暖房で暖かい。各食事用テーブルにお年寄り3人がゆったりと食事している。すぐ横が台所で昼食の焼き魚や五目御飯の匂いがしている。天窓からの採光で室内は明るく暖かい。奥行きのあるリビングには、平行棒が設置され、歩行訓練に力を入れている。トイレはユニバーサルで車椅子の使用に対応している。西側非常口を出ると広大な花畑と野菜畑がひろがっている。収穫時期にはお年寄りとともに収穫を行い新鮮な野菜で食事を楽しんでいる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内はカーペットが敷かれて温かく、転倒に配慮している。備え付けのベッドがあり、家庭で使われていた家具が持ち込まれ、その上に好きな小物が置かれている。壁には持参した写真や絵が飾られていた。室内は、お年寄りの使い易いようにレイアウトされ、安心と寛ぎのある自分の部屋づくりをしている。</p>		

 は、重点項目。